

# 室崎琴月と高岡

## —音楽活動と故郷との関係について—

東 久美子\*・坂本 麻実子

MUROZAKI Kingetsu and Takaoka

—His Achievements in Music and Relationship to his Hometown—

Kumiko AZUMA, Mamiko SAKAMOTO

キーワード：室崎琴月, 音楽, 高岡

keywords：MUROZAKI Kingetsu, Music, Takaoka

### はじめに.

小さい頃から親しみ続けた「夕日」(ぎんぎんぎらぎら夕日が沈む…)という童謡が, 筆者の郷里富山県高岡市出身の室崎<sup>きんげつ</sup>琴月(本名清太郎)によって作られたことを知ったのは, つい最近になってからだった。高岡でも筆者と同世代には琴月を知らない者が多い。在学中は何も考えずに校歌を歌っていたが, 筆者の母校高岡市立南星中学校の校歌も琴月が作曲していることがわかった。また高岡には「室崎琴月生家」が保存されており, 高岡の観光パンフレットにも載っている。本論文の目的は, 高岡出身の音楽家室崎琴月と故郷との関わりについて明らかにすることである。

琴月についての文献には, 琴月の長女室崎信子著『この道一筋 童謡「夕日」作曲者室崎琴月追想集』(室崎信子1991)がある。また『道德教育郷土資料(Ⅰ)』(高岡市教育センター所長砂田重男1988)には, 「努力する気持ち」を主題として, 琴月のライフストーリーが道德学習指導案資料として収められている。これらの資料に加えて, 筆者の調査を基に, 琴月と高岡とのつながりを明らかにする。

まず, 琴月の音楽人生を次のように区切った。第Ⅰ期は明治24年(1891)から明治43年(1910)までであり, 琴月が誕生し, 富山県立高岡中学校(現・富山県立高岡高等学校)を卒業後, 音楽家を志して上京するまでである(0歳~19歳)。第Ⅱ期は明治43年(1910)から昭和20年(1945)までであり, 琴月が東京音楽学校(現・東京芸術大学音楽学部)選

\*富山大学大学院教育学研究科

科で学んだ後, 予科を経て本科(ピアノ)を卒業し, 更に研究科(ピアノ)を修了し, 東京に中央音楽学校を設立するなど, 東京で作曲家・音楽教育家として大成していくまでである(19歳~54歳)。先に述べた「夕日」は第Ⅱ期の明治10年(1921)に作曲された。第Ⅲ期は, 昭和20年(1945)から昭和43年(1968)までであり, 琴月が東京で戦災によりすべてを焼失し, 高岡で音楽活動をしていた時期である(54歳~77歳)。筆者の母校, 高岡市立南星中学校の校歌は第Ⅲ期の昭和34年(1959)に作曲された。第Ⅳ期は, 昭和43年(1968)から琴月が亡くなった昭和52年(1977)までであり, 琴月が東京に音楽学校を再建し(校名は中央音楽学院とする), 高岡と東京を半年ずつ往復しながら音楽活動を行っていた時期である(77歳~86歳)。

次に, 琴月が高岡のために作曲した作品を調査し第Ⅰ期, 第Ⅱ期, 第Ⅲ期, 第Ⅳ期毎に整理した。そして, 琴月の音楽人生と高岡のために作曲した作品全25曲に①から㉔まで番号をつけて, 文末の資料にまとめた。

以上の作業を通して, 琴月と高岡の関係を考察する。

### 1. 室崎琴月の音楽人生

#### (1) 第Ⅰ期

琴月は, 高岡市木舟町にあった綿糸商・雑貨卸商の家長室崎清七(高岡旧諸商売屋号調査委員会1994; 20)の次男として, 明治24年(1891)2月20日に生まれた(室崎信子1991; 10)。現在, 琴月

の兄佐太郎の孫にあたる室崎信一が高岡の観光案内所、土産物屋として経営している琴月の生家には、琴月生誕当時の店の広告と、琴月が生家で暮らしていたころ愛用していたオルガンが保存されている。琴月の三女歌子の話によると<sup>(1)</sup>、琴月は明治26年(1893)に股関節を脱臼し、片足が不自由になった。明治35年(1902)3月、琴月は川原地子尋常小学校(現・高岡市立川原小学校)の第一回生として首席で卒業した(川原小学校創校100周年実行委員会2001;15)。琴月は小学生の頃から独学でハーモニカやオルガン、琴を演奏していた(室崎信子1991;12)。同年高岡中学校へ入学してからは、音楽の授業が実施されていなかった(富山県立高岡高等学校創立百周年記念事業後援会1999)にもかかわらず、更に音楽に興味をもち、自分の小遣いでヴァイオリンを買ったり、自分で線を引いて作った五線譜を持ち歩き、通学路にある高岡古城公園で作曲したりしていた(室崎信子1991;13)。明治43年(1910)3月に高岡中学校を卒業した(高岡高等学校同窓会1986;4)琴月は、家族の猛反対にあったが、上京して音楽を勉強することを決心する(室崎信子1991;14)。

## (2) 第Ⅱ期

琴月はまず東京音楽学校の選科に入り、予科入学のための受験勉強をした。明治43年(1910)に琴月は東京音楽学校選科、唱歌の男子丙組に入った(東京音楽学校1910;105)。当時の東京音楽学校選科では、唱歌は甲、乙、丙の三つのクラスに分けられており(東京音楽学校1910)、琴月は一番下のクラスに在籍していたことになる。翌44年(1911)に琴月は選科の唱歌の男子乙組に上がった(東京音楽学校1911;104)。翌45年(1912)には琴月は選科でピアノを学んだ(東京音楽学校1912;109)。

大正2年(1913)、琴月は3年の受験勉強を経て東京音楽学校予科に入学した(東京音楽学校1913;102)。大正3年(1914)、琴月は東京音楽学校本科器楽部に進学し、ピアノを学ぶ(東京音楽学校1914;107)。在学中の大正4年(1915)に吉丸一昌の授業で吉丸の「木がくれの歌」に曲をつけたことをきっかけに、琴月は作曲も手がけるようになった(室崎信子1991;15)。

大正6年(1917)に琴月は本科(ピアノ)を卒業し、東京谷中に中央音楽学校を設立(室崎1991;105)、音楽を教え始め、更に研究科(ピアノ)に進

学した(東京音楽学校1917;71)。当時、作曲専攻に、梁田貞、弘田龍太郎等作曲を学ぶ先輩達がいたが、琴月はピアノ専攻で通した。なお、琴月は本科、研究科どちらも卒業演奏会には出演していなかった(東京芸術大学百年史編集委員会1990)。

大正7年(1918)2月、琴月は研究科在学中に末吉操と結婚した(室崎信子1991;18)。琴月は操との間に1男3女(長女信子、次女百合子、長男清、三女歌子)を設けた。

大正8年(1919)、琴月は東京音楽学校研究科(ピアノ)を修了(東京音楽学校1919;114)した。

大正10年(1921)9月、小林守直作詞・室崎琴月作曲の川原町尋常高等小学校(現・高岡市立川原小学校)の校歌(文末の資料の「高岡のための作品」欄の①)が制定された(川原小学校創校100周年実行委員会2001)。同年11月、琴月は代表作となる「夕日」を作曲した(室崎信子1991;21;22)。琴月はこの曲について、「作曲の際は、日頃の散歩道であった谷中の高台から本郷台のきれいな景色を眺めながら、郷里高岡の古城公園から眺めた美しい夕日の情景を想起し、曲想をねった」(室崎信子1991;22)と語っていた。昭和4年(1929)琴月は平米町尋常高等小学校(現・高岡市立平米小学校)校歌(②)を作曲した。昭和17年(1942)、琴月は「大高岡を祝う」と題された曲(③)を作曲した。作詞は高岡市選定であった。信一が保管していたこの曲の楽譜には、10月1日の日付が記されていた。同年10月2日に新港町(現・新湊市)が高岡市に合併したことが関係していると考えられる。

## (3) 第Ⅲ期

昭和20年(1945)4月13日、琴月は戦火により中央音楽学校の校舎、楽器、楽譜すべてを焼失した(室崎信子1991;30;31)。高岡へ帰った琴月は、しばらく木舟町の生家で生活し、その後室崎家が檀家である麻生谷西光寺に移ったが、教職生活を始めた頃から間借になり、西栄町(現・川原町)、続いて下川原町(現・川原町)で生活していた(室崎信子1991;32)。年月日は定かではないが、琴月はその後高岡市二番町の高岡幼稚園(現・社会福祉法人鳳凰児童福祉会高岡保育園)、川原小学校、堀上町の高島屋楽器店等に中央音楽学校の分教場を設け、高岡市民合唱団、高岡児童合唱団を組織した(室崎信子1991)。分教場で教えるようになってからは住居兼事務所として高岡市花園町(現・大坪町)の関

病院の一室を借りていた(室崎信子1991;33)。関病院の院長関俊則の子供が琴月の教え子ということで、借りることができた(室崎信子1991;91)。関病院は今なくなり、跡地は現在「居食ダイニング暖高岡店」となっている。

昭和28年(1953)、琴月は高岡市桜町(現・本丸町)に中央音楽学校独立分校舎を完成させ、高岡婦人合唱団を組織した(室崎信子1991;33;34)。昭和29年(1954)、妻操が54歳で過労で亡くなった(室崎信子1991;34)。

昭和29年(1954)、「ぎんぎら会」が発足した。これは、「夕日」の歌詞から名づけられた会で、「子供達に健全できれいな歌を与えて、情操を豊かにし、大人もそれを歌って幼き頃を懐かしみ、音楽を通して互いのきずなを強め、併せて作曲者の琴月先生を励まそう」(室崎信子1991;35)ということを目的に、当時高岡婦人合唱団員であった東外枝(当時愛育園園長)、石田貞(当時高岡市青少年室長)、河井なおり、舟木富美子、堀美智子(当時高岡市長夫人)等によって結成された(室崎信子1991)。第一回目の集会は、琴月の誕生日である2月20日に伊勢高岡市教育委員会社会教育課長(当時)、荒井富山県教育委員婦人(当時)、高岡婦人合唱団、高岡児童合唱団、生徒、父兄等が集まり、歌や舞踊、短歌朗詠などが行われた(室崎信子1991;35)。

昭和38年(1963)に「夕日」の作詞者である葛原しげるの故郷広島県ふかやすぐんかんべ深安郡神辺町(現・広島県福山市神辺町)に「夕日」の歌碑が建てられた(室崎信子1991;38;39)。このことをきっかけに、高岡にも「夕日」の曲碑を建立しようという声ひろまり、昭和41年(1966)、高岡古城公園内に「夕日」の曲碑が建てられた(室崎信子1991;39)。同年7月25日には琴月を招いて「夕日」の曲碑除幕式が行われた(室崎信子1991;40)。

#### (4) 第Ⅳ期

昭和43年(1968)、琴月は高岡を離れ、谷中の残った敷地に中央音楽学校兼住居を再建し(室崎信子1991;41)、学校名は中央音楽学院と改め(小野芳照、室崎琴月)、そこに住んだ(室崎信子1991;41)。しかし高岡の中央音楽学校を手放したわけではなく、琴月は半年毎に高岡と谷中を往復し、作曲活動と音楽の指導を続けたという(室崎信子1991;41)。『新しい童謡と歌曲』(小野芳照、室崎琴月)の琴月の略歴に「現在、中央音楽学校(富山県高岡市本丸町

4-25)中央音楽学院(東京都台東区谷中2-13)経営」とあることから、どちらの学校(学院)にも行き来していたことがわかる。琴月は谷中では次女歌子と、長女信子の娘初子と一緒に住んでいた(室崎信子1991;41)。

昭和44年(1969)に琴月は小野芳照と共同で新興楽譜出版社から『新しい童謡と歌曲』と題する曲集を出版した。小野芳照作詞、室崎琴月作曲の全15曲が収められている。

昭和47年(1972)、琴月は5月に食道裂孔ヘルニアで入院し約一カ月で退院した(室崎信子1991;46)。昭和52年(1977)3月21日、琴月は老衰のため、谷中の自宅にて86歳で亡くなった(室崎信子1991;56)。歌子の話によれば<sup>(2)</sup>、琴月の墓は東京にあるという。

琴月の音楽活動でもっとも深く高岡にかかわっていたのは第Ⅲ期、次いで第Ⅳ期であった。次項では、第Ⅲ期の高岡での琴月の音楽活動を教職活動、中央音楽学校分教場・独立分校舎での音楽指導、演奏活動、作曲活動、受賞歴に分け、それぞれについて述べる。

## 2. 第Ⅲ期の高岡での音楽活動

### (1) 教職活動

昭和20年(1945)10月から、昭和23年(1948)9月まで琴月は高岡中学校に勤めていた(志貴野同窓会1954;33)。

その後昭和23年(1948)から昭和27年(1952)までは琴月は信子と共に富山県立高岡西部高等学校(現・富山県立高岡商業高等学校、富山県立高岡西高等学校)に勤めていた(富山県立高岡女子高等学校菊友同窓会1982;26)。

昭和23年(1948)1年間だけ琴月は南部中学校(現・高岡市立南星中学校)にも勤めていた。このことは南星中学校の同窓会誌『南十字星』第一號(高岡市南部中學校星友会1950;87)に旧職員として名前が出ていることと、南星中学校で作成された歴代教師一覧表から読み取れた。

琴月は昭和27年(1952)に高岡西部高等学校を辞めて以来、教職に就いていない。信子は琴月が辞めてからも高岡西部高等学校に昭和46年(1971)まで勤めていた(富山県立高岡女子高等学校菊友同窓会1982;29)。



## （２）中央音楽学校分教場・独立分校舎での音楽指導

年月日が定かではないが、琴月は中央音楽学校創立30周年を記念して、高岡幼稚園、川原小学校、高島屋楽器店等に分教場を設けた（室崎信子1991；33）という。琴月はそのとき平米小学校も借りて高岡市民合唱団や高岡児童合唱団を組織した（室崎信子1991；33）。筆者が高島屋楽器店の話を聞いたところでは<sup>(3)</sup>、高島屋楽器店へは琴月が直接教えに来ていたわけではなく、琴月の娘や門下生が教えに来ていたらしい。同店で高岡音楽院という音楽教室が現在も運営されているが、そこを立ち上げる際に相談役として琴月が力を貸していたようだ。

昭和24年（1949）6月26日には中央音楽学校主催の演奏会が開かれた（「（3）演奏活動」参照）が、高岡市民合唱団の指揮は宮下舜爾となっていた。琴月は高岡市民合唱団を組織したものの自身で指揮を振っていたわけではなかったようだ。またこの演奏会のプログラムには中央音楽学校の広告も載せられているが、教授科目がピアノ、オルガン、ヴァイオリン、唱歌、マンドリン、ギター、琴、社交ダンス、アコーディオン、作曲と科目数がとても多い。ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、唱歌、作曲までは琴月が教えられたとしても、他の科目は琴月以外の音楽家が教えに来ていたと思われる。

昭和26年（1951）6月24日には中央音楽学校主催の「室崎琴月還暦記念演奏会」が開かれた（「（3）演奏活動」参照）。

昭和28年（1953）、琴月は高岡市桜町に中央音楽学校独立分校舎を完成させた（室崎信子1991；33）。

中央音楽学校独立分校舎完成を機に、琴月は高岡婦人合唱団（団員約30名）を結成したが、数年後解散した（高岡市連合婦人会代表河合なをり1974；31）。「県婦人の歌 合唱コンクール第2位入賞」と題された昭和31年3月付の写真があった（高岡市連合婦人会代表河合なをり1974；30）ことから、この頃までは高岡婦人合唱団は活動していたことがわかった。

平成10年（1998）以降、信子は高岡から東京に移っており、校舎があった土地は現在人手に渡っているため、中央音楽学校独立分校の建物は今存在しない。筆者が歌子の話を聞いたところ<sup>(4)</sup>、琴月の弟子が中央音楽学校の名前を引き継いで高岡で音楽教室を運営しているということもないという。

## （３）演奏活動

琴月が高岡で音楽活動を行っていた頃の琴月出演の演奏会のプログラムは信一が保管していた。開催された年月日が分かる演奏会が6回（下記 i ～ vi）、開催された年が分からない演奏会が3回（vii ～ ix）あり、琴月が第Ⅲ期に9つの演奏会に出演していたことがわかった。その9つの演奏会に i から ix まで記号をつけて、文末の資料にまとめた。記号の順に内容を述べる。

### i 新寮歌発表会

昭和23年（1948）2月29日に琴月は高岡工業専門学校（現・国立富山大学工学部）の講堂で行われた「新寮歌発表会」と題される音楽会（主催・高岡工業専門学校仰嶽寮<sup>きょうがく</sup>）に出演していた。琴月は自ら作曲した仰嶽寮の新寮歌「寮生の歌(⑤)」を発表した。この発表では信子が新寮歌を歌い、琴月が伴奏していた。

### ii 第四回 春の音楽会

昭和24年（1949）5月15日、琴月は高岡工業専門学校の講堂で開かれた「第四回 春の音楽会」（主催・高岡音楽研究会）に出演した。この演奏会では琴月の編曲作品「お祭」「あひるの散歩」がピアノ連奏で演奏された。また琴月が作曲した「風が吹く」「つくしんぼ」の斉唱では、琴月が伴奏していた。

### iii 中央音楽学校演奏会

昭和24年（1949）6月26日には川原小学校で、中央音楽学校主催の演奏会が開かれていた。琴月が作曲した「お池の鏡」「つくしんぼ」が斉唱で、編曲作品の「あひるの散歩」がピアノ連奏で演奏された。「春の日（樽谷明美作曲）」「風が吹く（ブルンネン作曲）」の斉唱では、琴月が伴奏していた。

### iv 正派邦楽秋季第一回演奏会

昭和24年（1949）10月16日、琴月は川原小学校の講堂にて開かれた正派邦楽秋季第一回演奏会（主催・正派絲友會）に賛助出演者として出演していた。久本玄地作曲の「感謝の一日」で、琴月は高箏6人、低箏9人にピアノで1人加わって演奏していた。

### v 中央音楽学校演奏会

昭和25年（1950）11月12日、琴月は富山大学工学部の講堂で中央音楽学校主催の演奏会を開催している。琴月の作曲作品「あひるのおばさん」「ほおずき人形」「ゴムのまり」「秋」が演奏され、「あひるのおばさん」においては琴月が伴奏していた。琴

月編曲のピアノ連奏作品「胡蝶」も演奏された。

#### vi 室崎琴月還暦記念演奏会

昭和26年(1951)6月24日には富山大学工学部の講堂で室崎琴月還暦記念演奏会(主催・中央音楽学校)が開かれた。琴月の編曲作品「あひるの散歩」がピアノ連奏された。また琴月作曲の「さみだれの子守唄」「蛍の学校」が斉唱され琴月がピアノ伴奏をしていた。琴月作曲の舞踊音楽「夜明のダリヤ」も披露された。このプログラムに琴月の挨拶文が載せられていたのでここに引用する。

「東京で戦災を受け當地に歸りまして今年は恰も還暦を迎えるに至りました、懐かしい故郷の風物、とりわけ私のもっとも愛するあの二上山の楡用に接し乍ら教授に、作曲に、楽しい仕事を續けられるのも偏に皆様方のお陰と喜んで居ります。今度記念の演奏會が教え子達の出演で開かれることになりましたが年はとつてもいまだ老いず、卯年生れの私は脱兎の如く益々元氣に樂界のため働き度いと思います。何卒倍舊の御後援をお願い致します。」

#### vii ピアノ披露大音楽会

6月23日に高岡博労校講堂でピアノ披露大音楽会が開催された(主催・高岡南部中学校南星会)。琴月は信子と共に賛助出演者として出演していた。信子が琴月の作曲作品を独唱した際、琴月が伴奏をしていた。

#### viii 博労小学校での音楽会

8月27日に高岡市立博労小学校で音楽会が行われた(主催・博労町一区PTA)。中央音楽学校、高岡市民合唱団、高岡児童合唱団出演とあった。琴月は信子の伴奏をしていた。

#### ix 高岡音楽研究会秋の音楽会

10月26日に高岡音楽研究会の秋の音楽会が川原小学校の講堂で行われた。琴月は信子のピアノ伴奏で2回出演していた。

教職に就いていた昭和20年(1945)から昭和27年(1952)の間、琴月は高岡で最も精力的に演奏活動を行っていた。特に昭和24年(1949)には、琴月は他の年に比べ最も多く3回演奏会に出演していた。

#### (4) 作曲活動

昭和22年(1947)、高岡西部中学校作詞・琴月作曲の高岡市立高岡西部中学校の校歌(④)が制定された。

昭和23年(1948)琴月は高瀬重雄・濱松秀通作詞

の高岡工業専門学校仰嶽寮の新寮歌(⑤)を作曲した(「(3)演奏活動」参照)。昭和24年(1949)の富山大学発足まで歌われていた可能性はある。

琴月は同じ頃「高岡市民の歌(⑥)」を作曲していた(室崎信子1991;33)。「高岡市民の歌」の歌詞が懸賞募集され、当選した藤沢正己の詩に琴月が曲をつけたのだ(室崎信子1991;33)。しかしながら今この「高岡市民の歌」はほとんど聴かれなくなっている。高岡市立博物館には青銅で作られた「高岡市民の歌」の楽譜の版が保管されている。

琴月は大正元年(1912)に制定されていた佐野尋常高等小学校(現・高岡市立南条小学校)の校歌を昭和25年(1950)に改作し、佐野小学校(現・高岡市立南条小学校)校歌(⑦)とした。改作後の校歌は中山輝作詞であった。(南条小学校百周年記念事業実行委員会1974;294)。

昭和26年(1951)3月には大島文雄作詞・琴月作曲の高岡市立高陵中学校の校歌(⑧)が制定された(高陵中学校生徒会1957;7)。昭和27年(1952)11月3日には同じく琴月作曲・大島文雄作詞の中田町三か村学校組合立中田中学校(現・高岡市立中田中学校)校歌(⑨)が制定された。

昭和28年(1953)11月3日には高峰讓吉の生誕百年祭式典が行われた(室崎信子1991)が、その記念行事として琴月は中山輝作詩の「高峰博士を讃える歌(⑩)」を作曲した(室崎信子1991)。また同年結成された高岡婦人合唱団のために、琴月は「黄菊白菊(⑪)」「紅葉散る(⑫・作詞は与謝野晶子)」「雪ゆうべ(⑬)」「木枯(⑭)」等の合唱曲を作曲した(室崎信子1991;36)という。

昭和29年(1956)5月、琴月は小柴値一作詞の高岡市立国吉中学校の校歌(⑬)を披露した(高岡市立国吉中学校同窓会1997;18)。

翌30年(1955)1月1日に大島文雄作詞・琴月作曲の高岡市立博労小学校校歌(⑭)が制定された(博労小学校創立100周年記念事業実行委員会2001;456)。また作曲した時期が定かではないが、琴月は博労小学校には「同窓会の歌(⑮)」も作曲している(博労小学校創立100周年記念事業実行委員会2001;458)。

昭和30年(1955)7月15日に中山輝作詞・琴月作曲の高岡市立西条小学校校歌(⑯)が披露された(高岡市立西条小学校1982;279)。同年11月には同じく中山輝作詞・琴月作曲の高岡市立東五位小学校

校歌(⑭)が制定された。

昭和33年(1958)に琴月は二上孚舟作詞の農協高岡病院附属高等看護学院(現・厚生連高岡看護専門学校)の校歌(⑮)を作曲した。

昭和34年(1959)11月23日に広川親義作詞・琴月作曲の高岡市立南星中学校校歌(⑯)が制定された。

昭和36年(1961)11月には大島文雄作詞・琴月作曲の高岡市立石堤小学校校歌(⑰)が制定された。

昭和37年(1962)10月15日、大島文雄作詞・琴月作曲の学校法人荒井学園高岡東高等学校(現・荒井学園高岡向陵高等学校)の校歌(⑱)が制定された。

昭和38年(1963)6月琴月は小野芳照作詞の三部合唱曲「黄菊白菊(⑲)」を高岡婦人合唱団のために作曲した(室崎信子1989;51, 1991;36)。

琴月の第Ⅲ期における高岡のための作曲作品は、16曲(④～⑲)あることがわかった。また「博労小学校『同窓会の歌(⑳)』」,「紅葉散る(㉑)」,「雪ゆうべ(㉒)」,「木枯(㉓)」の4曲も第Ⅲ期に作曲された可能性が高い。

#### (5) 受賞歴

昭和27年(1952)に琴月は第6回北日本新聞文化賞を受賞した<sup>(5)</sup>。昭和30年(1955)5月3日に琴月は高岡市民功労賞を受賞した<sup>(6)</sup>。昭和41年(1966)11月3日に琴月は現在の「富山県功労表彰」である富山県政功労表彰(文化功労)を受賞した<sup>(7)</sup>。

### 3. 第Ⅳ期の高岡での音楽活動

第Ⅲ期に次いで琴月が高岡に深くかかわっていた時期である第Ⅳ期の琴月の高岡での音楽活動を述べる。

昭和44年(1969)1月22日に琴月作曲の高岡市立こまどり養護学校の校歌(㉔)が披露された(高岡市立こまどり養護学校校長鈴木邦雄1968)。

昭和45年(1970)10月、琴月は小野と出版した曲集『新しい童謡と歌曲』を一冊高岡市立図書館に寄贈していた。11月1日には高岡市民会館で『新しい童謡と歌曲』曲集出版を祝う記念演奏会が開催された(室崎信子1991;43)。東京でも同年7月5日に曲集出版記念会が行われていた(室崎信子1991;43)。同年12月には高瀬重雄作詞・琴月作曲の高岡市立南条小学校の校歌(㉕)が制定された(南条小

学校百周年記念事業実行委員会1974;287;295)。

### 4. 結 論

『この道一筋』によると、琴月の作曲した作品は2000曲余りある(室崎信子1991;1)という。文末の資料によれば、高岡のために作曲した作品は全25曲なので、琴月の全作曲作品の1%程度である。しかしそのうち15曲は現在も歌われており、琴月が高岡のために作った作品の6割が現在も歌われ続けていることになる。高岡のために最初に作られた曲である川原小学校の校歌などは、90年近く歌い継がれていることになる。琴月は戦後の高岡の音楽文化を語る上で、欠かすことのできない人物であったのだ。

しかし、琴月は戦火に遭わなければ高岡へ帰ってくることはなかったのではないかと。琴月は戦後高岡で過ごしたものの、東京での中央音楽学校の再建への思いがあり、戦火により東京を離れてから23年後、77歳でその夢をかなえた。このときなぜ琴月は東京に戻らなかったのか。琴月の本音としては、高岡より東京に大きく心が傾いていただろう。しかし「ぎんぎら会」という後援会を作るほど琴月を慕ってくれた高岡の人達を琴月は見捨てることができなかった。琴月は東京に戻った後も高岡の中央音楽学校独立分校を手放さず、高岡と東京を同等に扱っていた。

今は高岡に信子もおらず、中央音楽学校独立分校も存在しない。琴月が組織した高岡市民合唱団、高岡児童合唱団も今は存在しない。琴月と高岡を結びつけるものは、いまや「夕日」と15曲の校歌となってしまった。

「夕日」と15曲の校歌は高岡の人々が当たり前のように歌っていたからこそ、高岡に残った。しかし歌うことが高岡の人達にとってあまりにも当たり前だったので、作曲者である琴月のことを知らずに歌っているのが現状である。だからこそ筆者は高岡出身者として琴月と高岡とのつながりを明らかにし、琴月を再評価したいと考える。



## 謝 辞

調査の実施にあたり、室崎信一氏、野口(旧姓室崎)歌子氏、高岡市教育委員会文化財課高田克宏氏、高岡市立博物館館長晒谷和子氏、同博物館学芸員仁ヶ竹亮介氏、川原小学校校長(当時)中谷内恭子氏、平米小学校、中田中学校、西条小学校、東五位小学校、厚生連高岡看護専門学校、南星中学校、石堤小学校、向陵高等学校、高岡西部中学校、南条小学校の先生方、富山大学工学部教務の方々に心より感謝申し上げます。

## 参考文献

小野芳照、室崎琴月(1969)『新しい童謡と歌曲』  
東京：新興楽譜出版社  
川原小学校創校100周年実行委員会(2001)『とこしえ』高岡：株式会社北陸サンワ  
高陵中学校生徒会(1957)『高陵(第六号)』高岡：北陸印刷株式会社  
志貴野同窓会(1954)『會員名簿』砺波：中越印刷株式会社  
高岡旧諸商売屋号調査委員会(1994)『高岡の町々と屋号(第2号)』高岡：キクラ印刷株式会社  
高岡市教育センター所長砂田重男(1988)『道德教育郷土資料(I)』高岡：高岡市教育センター  
高岡市南部中學校星友会(1950)『南十字星(第一號)』高岡：小間印刷所  
高岡市立国吉中学校同窓会(1997)『目で見る創立50周年記念誌會員名簿』富山：株式会社チューエツ  
高岡市立こまどり養護学校校長鈴木邦雄(1968)『こまどり十年のあゆみ』高岡：日康堂印刷所  
高岡市立西条小学校百周年記念事業協賛会(1982)『西条のあゆみ』高岡：平田印刷株式会社  
高岡市連合婦人会代表河合なをり(1974)『高岡市婦人会史』高岡：有限会社東洋印刷所  
高岡高等学校同窓会(1986)『高岡高等学校同窓会會員名簿』東京：凸版印刷株式会社  
東京音楽学校(1910～1919)『東京音楽学校一覽』東京：明昇舎  
東京芸術大学百年史編集委員会(1990)『東京芸術大学百年史演奏会編第一巻』東京：音楽之友社  
富山県立高岡女子高等学校菊友同窓会(1982)『同

窓会會員名簿』東京：凸版印刷株式会社  
富山県立高岡高等学校創立百周年記念事業後援(1999)『高岡中学・高岡高校百年史』富山：株式会社チューエツ  
南条小学校百周年記念事業実行委員会(1974)『「南条」一歴史と教育一』高岡：小間印刷株式会社  
博労小学校創立100周年記念事業実行委員会(2001)『博労教育百年の歩み』高岡：小間印刷株式会社  
室崎信子(1991)『この道一筋 童謡「夕日」作曲者室崎琴月追想集』富山：青青編集  
室崎信子(1989)『童謡「夕日」の室崎琴月作曲集』東京：音楽之友社

## 注

- (1) 歌子には2009年12月に電話で話を聞いた。
- (2) 歌子には2009年11月に電話で話を聞いた。
- (3) 高島屋楽器店には2008年11月に話を聞いた。
- (4) 歌子には2009年11月に電話で話を聞いた。
- (5) 北日本新聞社への問い合わせによる。
- (6) 受賞月日は高岡市役所秘書課への問い合わせによる。
- (7) 受賞月日は富山県生活環境文化部文化振興課への問い合わせによる。

## 付記

本論文は東が富山大学教育学部に提出した2008年度卒業論文の一部を坂本の責任において加筆・修正したものである。

(2009年11月20日受付)

(2009年12月22日受理)

資料：室崎琴月の音楽人生と高岡のための作品

	年号	西暦	満年齢	室崎琴月の音楽人生	高岡のための作品
第 I 期	明治24	1891	0	2月20日、清七の次男として誕生する(本名清太郎)。	
	明治26	1893	2	股関節を脱臼し、以後片足が不自由となる。	
	明治35	1902	11	川原地子尋常小学校(現・高岡市立川原小学校)を首席で卒業する。	
	明治43	1910	19	高岡中学校(現・富山県立高岡高等学校)卒業。	
第 II 期	明治43	1910	19	東京音楽学校(現・東京芸術大学音楽学部)選科、唱歌の男子丙組に入る。	9月 ①川原町尋常高等小学校(現・高岡市立川原小学校)校歌 この年②平米町尋常高等小学校(現・高岡市立平米小学校)校歌 10月 ③「大高岡を祝ふ」
	明治44	1911	20	東京音楽学校選科の唱歌男子乙組に上がる。	
	明治45	1912	21	東京音楽学校選科でピアノを学ぶ。	
	大正 2	1913	22	東京音楽学校予科入学。	
	大正 3	1914	23	東京音楽学校本科(ピアノ)へ進学。	
	大正 6	1917	26	東京音楽学校本科(ピアノ)卒業、同研究科へ進学。 東京谷中に音楽学校「中央音楽学校」を創設。	
	大正 7	1918	27	2月、末吉操と結婚する。	
	大正 8	1919	28	東京音楽学校研究科(ピアノ)修了。	
	大正10	1921	30		
	昭和 4	1929	38		
第 III 期	昭和17	1942	51		この年④高岡市立高岡西部中学校校歌 2月 ⑤高岡工業専門学校仰嶽寮新寮歌「寮生の歌」 この頃⑥「高岡市民の歌」 この年⑦高岡市立佐野小学校(現・高岡市立南条小学校)校歌 3月 ⑧高岡市立高陵中学校校歌 11月 ⑨中田町三か村学校組合立中田中学校(現・高岡市立中田中学校)校歌 11月 ⑩「高峰譲吉を讃える歌」 5月 ⑪高岡市立国吉中学校校歌 1月 ⑫高岡市立博労小学校校歌 7月 ⑬高岡市立西条小学校校歌 11月 ⑭高岡市立東五位小学校校歌 この年⑮農協高岡病院附属高等看護学院(現・厚生連高岡看護専門学校)校歌 11月 ⑯高岡市立南星中学校校歌 11月 ⑰高岡市立石堤小学校校歌 10月 ⑱学校法人荒井学園高岡東高等学校(現・荒井学園高岡向陵高等学校)校歌 6月 ⑲「黄菊白菊」
	昭和20	1945	54	4月13日の戦火により高岡に戻り、10月より高岡中学校の音楽教師となる。	
	昭和22	1947	56		
	昭和23	1948	57	2月29日、高岡工業専門学校(現・国立富山大学工学部)仰嶽寮主催「新寮歌発表会(i)」に出演。 9月、高岡中学校を辞め、富山県立高岡西部高等学校(現・富山県立高岡商業高等学校・富山県立高岡西高等学校)の音楽教師となる。 この年1年間のみ南部中学校(現・高岡市立南星中学校)の教壇にも立つ。 この頃、高岡に中央音楽学校分教場を設置する。 この頃、高岡市民合唱団創設。 この頃、高岡児童合唱団創設。	
	昭和24	1949	58	5月15日、高岡音楽研究会主催「春の音楽会(ii)」出演。 6月26日、中央音楽学校主催の演奏会(iii)を開催する。 10月16日、正派絲友会主催の「秋季第一回演奏会(iv)」に出演する。	
	昭和25	1950	59	11月12日、中央音楽学校主催の演奏会(v)を開催する。	
	昭和26	1951	60	6月24日、中央音楽学校主催の「室崎琴月還暦記念演奏会(vi)」を開催、自ら出演する。	
	昭和27	1952	61	北日本新聞文化賞受賞。 高岡西部高等学校の音楽教師を辞める。	
	昭和28	1953	62	高岡市桜町(現・本丸町)に独立分校舎落成。 高岡婦人合唱団創設。	
	昭和29	1954	63	2月20日、「ぎんぎら会」発足。	
	昭和30	1955	64	5月3日、高岡市民功労賞受賞。	
	昭和33	1958	67		
	昭和34	1959	68		
	昭和36	1961	70		
	昭和37	1962	71		
	昭和38	1963	72		
	昭和41	1966	75	7月25日、高岡古城公園内に「夕日」の曲碑建設。 11月3日、富山県政功労表彰(文化功労)を受賞。	



第 Ⅳ 期	昭和43	1968	77	東京都台東区谷中に音楽学校「中央音楽学院」を再建。  7月5日、東京で『新しい童謡と歌曲』曲集出版記念演奏会が開催される。 11月1日、高岡で『新しい童謡と歌曲』曲集出版記念演奏会が開催される。 3月21日、東京の自宅にて永眠。	1月 ㊹高岡市立こまどり養護学校校歌 12月 ㊺高岡市立南条小学校校歌
	昭和44	1969	78		
	昭和45	1970	79		
	昭和52	1977	86		

- (備考) 1. 「満年齢」欄の年齢は、「室崎琴月の音楽人生」欄内の出来事の月日に関わらず、「西暦」に合せて記載した。  
 2. 「高岡のための作品」欄で、太字表記の作品は、現在も歌われている。  
 3. 作曲年月日が不明な作品は、㊹「博労小学校『同窓会の歌』」㊺「紅葉散る」㊻「雪ゆうべ」㊼「木枯」があるが、これら4曲は第Ⅲ期に作曲された可能性が高い。

